

進路ニュース みらい 29号

広島市立広島養護学校 進路指導部 広報係

小・中学部、高等部ともに卒業式が近づいて参りました。川辺には菜の花が咲き始め、新しいスタートの季節を彩っています。今回は卒業や進級を控え、進路決定の参考になるトピックスとして、高等部3年生保護者からの体験談も掲載しています。



高1 進路学習について

1月に実施した校内実習では、5つの作業班を設定して、班ごとの目標・自分自身の目標を設定して5日間、臨みました。事前学習で意欲を高め、事後学習で実習を振り返って自分の目標を見直すなど、今後の学校生活に生かせる実習となりました。

2月には2グループに分かれて学習しました。1班は、高3先輩のお二人から話を聞きました。高校生活の話や進路決定に至る経緯などを聞き、高1の生徒たちは自分の進路を考えていく心構えを高めることができたことでしょうか。2班は広島市中心身障害者福祉センターの見学に行き、インストラクターの指導のもと、体育館を使って風船バレーで楽しむことができました。

3月には、学習してきたことを思い出しながら今後の学習内容についての理解を深め、1年間のまとめをしたいと考えています。

(高等部1年)

高2 生徒職場見学

1月23日(火)に高等部2年生の進路学習、「職場見学」を行いました。実際に職場を訪れ、働いたり活動したりしている人たちを見学し、社会生活や働くことへの関心を持ち、自分の進路について考える機会とすることをねらいとしました。

作業所、授産施設、企業、能開校など11か所に分かれて、施設の見学と作業体験を行いました。初めて行く場所で緊張しながらも、大きな声であいさつしたり、職員さんの話をしっかり聞いたりして、充実した時間を過ごしました。実際に作業をしているようすを間近にし、「働く」という雰囲気を感じとることができたようです。

学校に帰ってから(企業見学に行った人は後日)事後学習を行い、見学したことを振り返りました。

3年生に向けて、今回の職場見学で学習したことを生かしていこうと思います。

(高等部2年)

進路決定に向けて...

いよいよ卒業が目前となりました。本人、保護者、学校と3人4脚で進めてきた進路選択への歩みもゴールではなく、大きな通過点を迎えます。3月いっぱいには受給者証の交付、契約、実習、最終的な確認等、進路の取り組みは続きます。そして3月13日から次々と新しいスタートを切ることになります。41名の道はそれぞれ違いますが、



3年間の取り組みの中で考え、悩み、苦しんで選択した「将来の夢と希望」の種を大切に一生懸命育ててそれぞれの花を咲かせて欲しいと願います。くじけずに頑張ればいつか必ずきれいな花は咲く。これからも頑張ってください。新たなスタートを前にして保護者の方からの原稿を2つ紹介します。

(高等部3年)

【Aさんより】

まず、この3年間扱いの難しい息子に対して親の思いを汲み取って頂きながら根気強く指導して下さった先生方に心から感謝いたしたいと思います。本当にありがとうございました。

高等部に入学して将来の進路をきかれた時、自閉症で集中力がなくかんしゃくをよく起こして他傷のある息子をずっと学校のように指導して成長を援助して下さる場所はないですかと都合の良いことを言ったのを覚えています。小さい頃からずっと自己コントロールができるようにしてやりたいとそれが一番の願いでした。

そのためには進路先をどこにしたらよいか迷っていました。時にはレベルの高いところでよい刺激を受けさせたいと2年の春休み、宇品の能開校やお寺駐車場と契約して清掃をする会社形態のある所に実習を頼んで親子で通いました。かなり自立のできている人たちの仕事場で世間との接触もあるし、良いお手本を見て息子も伸びるのではないかと、親のエゴだったかもしれませんが。受け入れは難しいとのことでした。それで以前から御縁のあった実家近くの、自閉症の人に配慮するために5年前に作られた作業所に決めました。引越しをしなければなりません、夏休み中の実習も落ち着いてできていたので決心がつかしました。それから「環境の変化に弱いお子さんに無理をさせることはどうでしょうかね」と高等部入学時のことを思い出させて下さった先生の一ことが大きかったです。この学年だけ3年間同じ先生方に担任して頂いているので、息子のことをよく理解して下さっていて大変助かりました。これから実際に通所してみないとこれが良かったかどうかは分かりませんが、子どもの様子をよく見て、親も素直な気持ちになって御縁のあった所に行かせて頂けることになってよかったかなと私の場合は思っています。校区外なのにお骨折り頂き本当にありがとうございました。

(匿名A様)

【Bさんより】

「市立養護は卒業生が在宅にならないように良くやってくれるんだって！」と聞いて高等部に入学しました。でも施設・作業所はどこもいっばいで自分たちで作るしかないらしい・・・「作ろう！」と思い、以前作業所を立ち上げられた方に相談に行きました。すると、「もうすぐ法律が変わるので今から作ることは勧められない。」という返事でした。卒業後、行くところがなくて私と家事をしていてもいいのだけれど、親がいなくなったらどうなるのだろう・・・。

軽度では障害基礎年金も出ないと聞き、「何としても一般就労してもらわなくては！」と思ったのですが、本人の合うところに進ませるべきであって、年金が貰えないかもしれないので就労させるという考え方はおかしいのではないかと、無理をさせてつらい思いをさせたくないし・・・といろいろ考えました。

テレビや研修会などで知的障害者を雇用している企業の様子を見ると、「うちの子の方がしっかりしているのになあ」と悔しくなりました。高2の職場体験実習は試しに企業でや

ってみることにしました。「仕事が遅いので雇用は難しい。」と言われましたが、バス通勤や暑い中での立ち仕事ができることがわかり、本人にあう仕事と会社の理解があれば就労も可能であると感じました。でもそんな会社なんてないよね、甘いのよね、でもひょっとしたらあるかもしれないし・・・ということで一応一般就労を希望して、卒業までに決まらなければどこかで訓練を受けながらチャンスを待つことに決めました。でもその間「本人はつらくないだろうか？」という思いもありました。

そんな中で10月、学校と関係機関との連携で本人にぴったりの会社がみつきり、実習した結果採用が決まり本当にラッキーでした。これからは長く元気に働き続けられるように応援していきたいと思います。

(匿名B様)

進路決定に際しては、どの保護者も子どもさんと共に悩み、紆余曲折を経るようです。先輩保護者の体験談を聞かせていただくことで悩みを共感し、よりよい進路決定に向けての力を得られるのではないかと考え、この度高等部3年生の保護者の方お二人にこれまでの進路選択に関わっての体験談を依頼しました。お二人とも快く引き受けてくださいました。ありがとうございました。

<インフォメーション>

障害者自立支援法の枠組みの中で、新しい動きがありましたので、ご紹介致します。

就労支援継続A型

この2月15日に、広島愛パック株式会社(西区商工センター2丁目)が開所しました。この会社は、福山にある食品トレー製造会社エフピコの子会社であり、障害者自立支援法に基づく「就労継続支援A型」(一般の企業で就労が難しかった障害者を雇用し、福祉サービスを受けながら就労する事業所のこと)の認可を昨年取得しました。今年、知的障害者を中心に10名程度を採用する予定です。仕事内容はポリスチレン素材の容器の製造・販売などを行っています。

就労支援継続B型

今年の5月頃に、社会福祉法人 それいゆの会の「いしうちの森」(佐伯区五日市町石内) という施設が新しく開所の予定。作業内容としては、農作業を中心とした活動(農作物の栽培・管理・収穫、袋詰め・出荷など)となるようです。マイクロバスでの送迎もあるとのことです。

新しく出てきた進路先

高等部3年生の進路先で、本校から初めて卒業生が進路をとったところが2カ所あります。

・北西夢工房(安佐北区可部町勝木)は、広島市手をつなぐ育成会の北西支部として作られた小規模作業所で、自閉症の方を中心に受け入れておられます。現在NPO法人格を取得し、20名規模の社会福祉法人を目指しています。活動としては、冬場ははた織りやクラフト、春夏は陶芸や紙すきなどに取り組んでいます。

・あゆみ生活実習所(安芸郡熊野町)は、「熊野町心身障害者父母の会」が運営する小規模作業所でこれまで熊野町の障害者の方を受け入れてきました。(現在、町外からも3~4名の受入を検討)昨年「社会福祉法人 あゆみ」が認可され、この4月には「障害者活動

センター あゆみ」として開所の予定です。

その他

名前 「SAORI広島」

場所 広島市西区横川新町6-8 西区民文化センター1F スカイプラザシーイング内
NPO法人さをりひろば ネットワークセンター広島

内容 障害者自立支援法による地域活動支援事業

特定非営利法人さをりひろばは、個性を尊重する新しい「さをり」の活動を通して、障害がある方や高齢者たちの社会参加や生活向上のお手伝いをするために、1982年に設立しました。その中で障害がある方の芸術発表を中心とした活動の場を提供するのが障害者芸術支援事業でその芸術作品の作成の場として、地域活動支援サービスを始めました。

(進路コーディネーター)

【進路コラム】

「今年の3年生の進路指導を振り返って」(高1・2保護者進路研修会から)

2月の参観懇談会では1年生、2年生とも進路の研修会がありました。この研修会では今年の3年生の進路状況の報告がありました。その時の話の内容を少しご紹介します。

今年は自立支援法のスタートの年で、そのことを背景にして、法人施設が1割から2割程度の定員増をしたことで、施設利用の枠が少し広がりました。但し、このような現象が来年も続くとは限らないので、来年度は今年通りではないかと思われます。また在学中からの制度利用を積極的に活用されることも勧められました。介護給付事業を利用すれば、利用負担金額や介護認定区分も分かってくるので進路を考えると参考になります。また、地域生活支援事業の活用(移動支援事業や日中一時支援事業等)も卒業後の生活を作る上で役立ちます。

就職関係では、今年は1月に行われたハローワーク主催の企業との合同面接会で内定を勝ち取った人もいます。最後のチャンスでもものにしました。また、久しぶりに能力開発校への進学や、インフォメーションでもご紹介している、全国で先駆けて誕生した就労継続A型と言われる福祉型の企業へも就職が決まった人もいます。本年度は、このように色々な動きがあった激動の年でもありました。

研修会の内容の一部ですが、このような話がされました。

今年は、41名の生徒が高等部を巣立っていきます。学校卒業後の就労や生活がスムーズに移行されていくことを願って、4月からは、また新年度の進路指導を開始していきたいと思っています。来年度は49名という大集団です。正直、なかなか厳しい年度になると覚悟しています。情勢の変化や情報の収集を敏感に反応し、上手に対応することも大切になると思います。今後ともご支援・ご協力をお願いします。

(進路コーディネーター)

 **卒業おめでとう**